

# 号外

## 水稻・イネカメムシ発生地域拡大！注意！

JA京都中央 2023年9月14日



# 営農ウィークリーNEWS



イネカメムシ成虫

当JA管内で2020年より、長岡京市、京都市西京区地域で、数頭の発生を確認しており、早生品種の出穂が早い圃場に集中して発生しております。

「イネカメムシ」は、本州、四国、九州、南西諸島など分布するイネ科植物の害虫として知られています。体長は12～13mmで、4月頃から越冬地で活動を開始し、水稻の出穂前から本田に侵入することもあります。

早生品種では走り穂が出ると本田への侵入が始まり、吸汁加害します。「イネカメムシ」は、**斑点米を発生させるだけでなく、出穂期**

**に籾の基部や茎の加害により不稔を生じさせ減収となる恐れがあることが知られています。**

国内では、茨城県、千葉県、静岡県、愛知県、岐阜県、京都府、三重県、滋賀県、山口県などで発生が報告されており、近年、生息地や被害が拡大傾向にあります。

京都府では、2018年に注意報が発表されており、昨年では、兵庫県において、不稔症状により大幅な減収となる被害も報告されています。

**管内では、不稔を生じさせるような目立った被害は発生していませんが、「イネカメムシ」特有の基部が吸汁（画像参照）された被害粒が産米**

検査現場で見受けられます。本年は、7月下旬より、長岡京市、京都市西京区、京都市伏見区で発生調査を行っており、長岡京市で、晩生品種の「ヒノヒカリ」圃場で、**初確認**。9月11日に京都市伏見区で「イネカメムシ」の幼虫を確認。9月13日には、「イネカメムシ」成虫の発生を確認しました。これまで、山間地に近い地域では、発生して

ましたが、**平坦地では、初確認**となりました。**南西部以外の北部地域でも確認**しております。確実に生息地は、拡大しております。防除の適期は過ぎておりますが、**次年度の発生量減少**に向け、晩生品種の「ヒノヒカリ」などの圃場で見かけたら防除を行ってください。



イネカメムシ幼虫



「イネカメムシ」による基部が吸汁された斑点米の被害粒





農林水産省登録  
第22564号

無人航空機  
散布に対応!

殺虫殺菌植物成長調整剤

# フジワンラップ<sup>®</sup>

## 粒剤

登熟歩合向上効果

# 高品質米の生産に!

本田のカメムシ類、ウンカ類、  
いもち病を同時に防除、  
籾の登熟歩合も向上します。



〈写真はイメージです。〉

®フジワンラップは日本農薬(株)の登録商標

### ■ 適用病害虫および使用方法

作物名	使用目的	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エチプロールを含む農業の総使用回数	イソプロチオランを含む農業の総使用回数
稲	—	いもち病	3~4kg /10a	葉いもちに対しては 初発7~10日前 穂いもちに対しては 出穂10~30日前 但し、収穫30日前まで	2回以内	湛水散布 又は 無人航空機 による散布	2回以内 は種時(直播) 又は 移植時までの 処理は1回以内	3回以内 (移植前は1回以内、 本田では2回以内)
		ウンカ類		収穫30日前まで				
		ニカメイチュウ	出穂10~30日前 但し、収穫30日前まで					
		カメムシ類		4kg /10a				
	稲こうじ病	出穂10~20日前 但し、収穫30日前まで						
登熟歩合向上	—							

<2023年4月現在の登録内容>

次年度の  
**2024年産**  
米の「**イネカメ**  
**ムシ**」防除は、  
「**フジワンラッ**  
**プ粒剤**」を使  
用して、防除  
を行いましょ  
う!